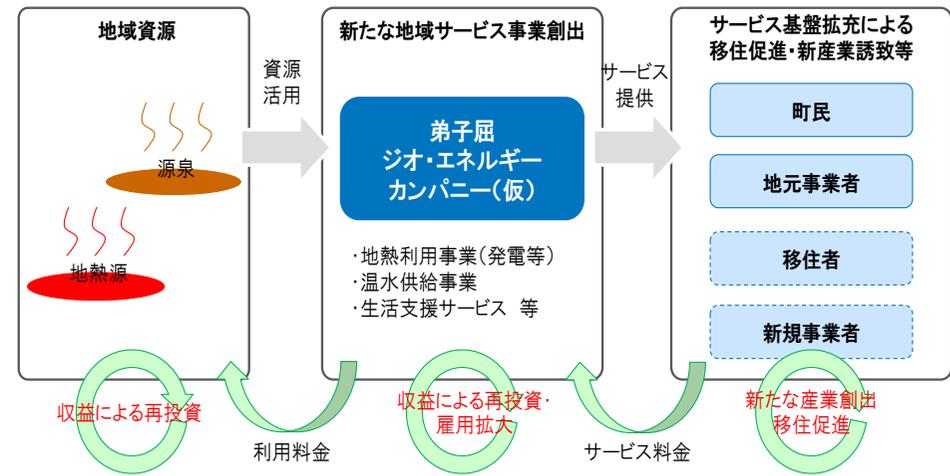


# エネルギー地産地消事業化モデル支援事業計画概要

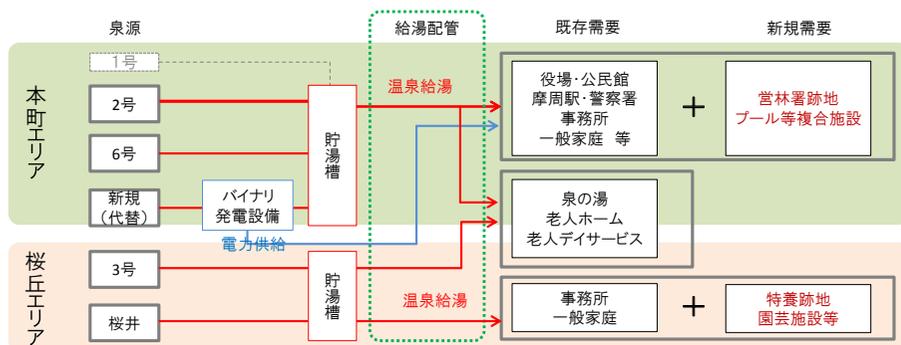
事業名称：弟子屈町 地熱資源を活用した「弟子屈・ジオ・エネルギー事業」

- ・本町では、総務省の「平成28年度弟子屈町分散型エネルギーインフラプロジェクトマスタープラン作成業務」において、町内に賦存する豊富な地熱エネルギーを余すところなく活用する「地域エネルギー事業」を推進していくことを計画した。
- ・同計画では、町とともに事業を推進していく事業体を、「地域主導」で立ち上げ、その地熱資源の恩恵を最大限町内に還元していく事業スキームを想定している。
- ・そのため、本町は、その新たな地域事業体「弟子屈ジオ・エネルギー・カンパニー（略称T-GEC）」とともに、今後の事業の柱となる、「温泉給湯事業」「温泉バイナリ発電事業」、さらに別途調査検討を進めている「地熱フラッシュ発電事業」を5か年で推進していくために、本基金を活用することを想定する。



## ①地熱利用のエネルギーシステム案

- ・既存源泉からの温泉、及びバイナリ発電後の温泉を利用し、新たな既存需要先と、新規需要の熱源として供給。
- ・給湯は各地点に設置されている貯湯槽に一旦送られた後に、需要先へ給湯される。新たに供給量及び需要先が増えるため、既存配管・貯湯槽を含め、配湯フローの見直しを図る。
- ・バイナリ発電による電力は、本町エリアの公共施設等への供給を行う電熱利用を行い、エネルギー利用効率の最大化を図る。



※給湯の代替井掘削においては、1号井を含む、既存温泉井の廃止・統合を行ったうえで実施予定。

## ②T-GEC事業スキーム

- ・T-GECは、①町民、町内事業者が出資参画すること、②町も一定の関与をすることで、公益性の担保+事業収益を町内還元することを担保し、③事業実施に係る部分は、外部の事業会社を選定して、ノウハウ、技術の補完を行うことを想定する。
- ・事業スキームについては、新たな地域エネルギー事業体の「持続性」を重視する。そのため、新設するバイナリ発電設備について、投資も含めて新事業体が保有し、源泉、及び給湯インフラは公共が保有・貸与する「上下分離型」で実施するスキームを想定している。

